

門真市都市ビジョン策定懇話会 第3回懇話会 議事録

場 所：門真市役所別館3階第3会議室

日 時：2006年11月16日（木）午前9時～11時

出席者：懇話会委員（あいうえお順）

植田和弘会長 熊見豊明委員 杉沼寛善委員 立成良三副会長 建部昌弘委員
中井雅之委員 正木啓子委員

事務局：門真市企画部

妹尾部長 中村技官 圓月参事兼課長 千住参事 水野係長 三宅氏
コンサルタント 株式会社かんこう 馬場 山東

1. 開 会

- ・事務局担当が企画財務部まちづくり推進担当に交代したこと及び公聴者が1名いる旨の報告。（事務局）

2. 議 事

第3回懇話会資料の説明と前回の宿題の報告。

協 議

<経過説明について>

- ・市民会議に1回から3回まで参加されている方は同じ思いを持った方なのか。まったく違う方のか。（中井委員）
- ・初めに公募で応募された22名を固定して行っている。（事務局）

<懇話会の提言に向けて>

- ・「ワンルームマンションないしは低家賃住宅居住者の未登録者の登録促進」とあるが、未登録者というのは転入ないしは転居してきても市に登録していないということなのか。幽霊人口ということなのか。そういう人が門真市の中にたくさんいて、行政の財源等に悪影響を与えている。未登録者なので当然本人の権利も行使もできないし、あるいは市からの援助も受けられない。そのような人がかなりいるということなのか。（委員）
- ・数字的にはつかんでいないが、かなりあるだろう。（事務局）
- ・それが全住民の2割とか3割なら大変なことだが、単に何百、何千というたぐいのものならば、このような議論をしてもあまり効果もないし、する必要もないのではないか。先ほどから聴いていて、そこが疑問である。税の対策をしているが、なぜ、このようなことをしなければならないのか。逆に言えば、門真市の市民というのはそういう不正なことをしている住民が多い。それを正しく住民登録するための対策としてやらなければならない必然性が本当にあるのか。（委員）
- ・住民登録をしていない方がいる状況避けるというのは、住んでいてもごみを出すわけなので、できるだけ登録して市民税を払える状況に、まずしていただきたい。もう一つ

は、経営家賃をちょっとでも上げていく意味もある。今、門真市は低家賃住宅があるがゆえに、そういう人ばかりが流れてくる。他市と同水準の家賃にするなどの対策を行うことにより、低家賃住宅に流れてくる人を少しでも防ぐことができ、少しでも扶助費を下げることはできないかと考えている。できるかできないかは別として、今回、提案をさせて頂いている。(事務局)

- ・ 門真市に未登録者がいるということで、未登録者が市の行政に悪影響を与えているということなのか。(委員)
- ・ 未登録者の方はワンルームがかなり多く、どこかに住民票をおいており、仮住まい的な形で本市に住んでおり、コミュニティの希薄化の原因ともなっている。統計は取っていないが、かなり若い人が多いと思われる。コミュニティもなく、ただ寝に帰ってきて、そこにいるだけである。でもごみは出す。どこかに住民票をおいているわけなので、違反ではないが、できるだけここに住む限りは、この市民という形をとっていただきたい、というしかけづくりである。(事務局)
- ・ 門真市にとってそういう人は、負担になっていると思うが、生活するために水を使うのに、それに対する個人の義務は果たしていないということか。(委員)
- ・ 水道等は、当然使用料は払ってもらっている。(事務局)
- ・ そういう人はどれぐらいいるのか。それがかなりの数であれば、かなり大きな問題だと思う。この税は、「本市に来るな」と言っているように市民には聞こえるのではないか。「どうぞ他に行ってください」というように聞こえないでもない。こういう税を作っても、実際の該当者がごく少数であるとすれば、災いの方が結果的に大きいように思う。だから未登録者の位置づけ、未登録者の把握をどのようにしているのか、その点に疑問を持っている。(委員)
- ・ その点については、事務局でも随分、議論があった。本音でいうと、これ以上、支えられる人がこのまちに入って来ないしくみをまず作らないと、若い人の住宅を供給しようとしても、せっかく潜在的な価値のある場所がありながらも、供給できないという状況になっている。広域の中で仕組みがつくられていっている中で、どんどん悪循環が起こり、都市間競争の中でも差が開いていく。はっきり言って、「来ないで下さい」ということを宣言するための仕組みである。支えられる人の流入を止めるための一つの手段として考えており、ワンルームマンション居住者の住民登録はセットとして考えており、住民登録をする、しないの議論はかなりあると思う。このため、この税の名前が本当にいいかは、疑問は持っている。(事務局)
- ・ 門真市の木造共同住宅は6%とあり、明らかに他市に比べて高い。例えば、他の府県、東海地区地震が起こるであろう地域は、防災の視点から住宅を補強するための補助金を出す自治体がある。本当は老朽化した住宅を取り壊したいのである。防災の視点から、時限立法的に、「この期間だったら取り壊すための費用の補助をいくら出しますよ」というやり方でやる。入れ物をリニューアルあるいはフォーメーションしていくことを

促進していく施策も一つあるのではないかと思う。(委員)

- ・ダイレクトに行うのではなく、住宅の建て替え促進的なことで行ってはという提案であるが、他に意見はないか。(委員)
- ・例えば、ワンルームマンションをひとつ取り出したときに、新しいワンルームマンションであれば、住んでいる方のイメージは単身赴任者や学生であり、結構元気な層の方がいるはずである。低所得者層に絞るのかどうかの中身をイメージして、この議論はしないといけないのではないかと思う。賃貸住宅にすることに税を課すということだけが全面に出してしまうと、土地活用事業、これから行う密集事業などの気運を冷やしてしまうことになりかねないと思う。家賃を高く取れるところは通用するが、高く取れないところにさらに課すというのは、事業者の気運をさらに冷やしてしまうといった、違う悪循環をつくるのではないかと思う。(委員)
- ・多少賛成するところもあるが、あまりにもワンルームに住んでいる方がお荷物的な発想は、ちょっとおかしいのではないかと思う。学校が門真に来たらいいなという思いがある。学生というのは、おそらく4年間ないし数年間、短期で来る。その間、わざわざ住民票を移す方は少ないと思う。ただ、生活圏は門真市におくのため、買い物も行くだろうし、電車にも乗るだろうから、何らかの違った影響を与えてくれるのではないか。大きな会社、松下産業などに単身赴任で来る方もいるだろう。一人で住んでいたら、夜に居酒屋で飲むこともあるだろう。違う経済的な影響もあるだろうと思う。それをあまりにもいかに、というのは残念である。木造住宅や賃貸マンションの所有者の中には門真在住の方と他市在住の方がいると思うが、この割合は分かるか。(委員)
- ・分かるとは言えないが、資産税を見ればある程度分かると思う。(事務局)
- ・資産税というのは分かるが、それ以外のプラスもたくさんあると思う。それが門真在住の方以外だったら、他に納めるのが現状であるから、どの程度、門真在住の方が持ち主でいるのかと思う。(委員)
- ・前回からよくまとまりつつあるなど、これを評価する立場でみている。次回でほぼまとまってしまうので、言葉の使い方など、気になる点を言わせてもらう。門真の弱みについて「教育力が低い」ということを言われると、門真に住んでいる者としてはたまらない。義務教育で教育力が低いというのは、国の責任である。大学の進学率が低いのであれば、そう書けばいい。教育力が低いという意味が、義務教育から高等教育まで達した結果、低いのか。低ければ、数字をどこかで表してもらえれば理解できる。門真市在住として、教育力が低いと言われたら、がまんならない言葉の表現である。「犯罪が多い」については、引ったくり率のことと理解している。それならかっこで引ったくり率を書いた方がよい。「低水準家賃住宅」はここで造語されたと思う。公営住宅と木造共同住宅を合すると他市に比べて非常に多く、14%もあり、意味はよく分かる。これはすなわち低家賃だからである。低水準家賃住宅という言葉は今まで使っていない。民営借家とか木造賃貸住宅と言っていた。修正するなら低水準賃貸住宅といった通常使っている言

葉の方がいいと思う。それと、「門真市の密集市街地を中心とした低水準家賃住宅への支えられる人を中心とした居住」は、「等」などと書いているので、読めないことはないが、要するに線路から北部の地域、密集市街地は支えられる人ばかりと言っている。言葉を選んだ方がいい。キーワードとして「支える人」と「支えられる人」に、もの見事に切ったことで非常によく分かった。しかし、支えられる側から見ると、いろいろ人権のことを言われている中で、それでいいのかと思う。参考までに、大阪府は平成18年3月に「新しい住宅まちづくり施策」についての答申で、「住宅は基本的人権の重要な要素をなすものである」と、住宅は基本的人権であるという領域まで日本で始めて大阪府が言った画期的な答申である。木造密集市街地、基本的人権に触るような所に住んでいる人に対して、「貧乏人は支えてあげる、財政から見たら困る」というのは確かにそうかもしれない。だが下に書いてあるように、「支えられる人が減らない、増加する」、「支える人が増えない」と書くのは、人権問題、言い過ぎではないか。随所に出ており、これは、「支えを求めている人」とか、「サポートしている人」など、その場その場で意識を持って見直していった方がいいのではないかなと思う。全体を通して、支える人、支えられる人となっているので、今の私の意見で筋は変わらないとしても、主張が弱くなるのではないかなと思う。このまま議会に出した瞬間に、かなりどこから抵抗があるのではないかなと考えているので、一度事務局で考えてみて欲しい。生活保護所帯が非常に増加しているなど、いろいろな言葉があると思う。木造密集地にみられる低水準かつ低家賃住宅がある。特に、大阪府下では、貝塚市に次いで門真市は公営住宅率が高い。ただ、公営住宅は確かに低家賃だが、今は制度が変わり、所得に応じた応益家賃になっている。たぶん低家賃住宅で正しいと思うが、少し引っかかるところがあるので、公営住宅が多すぎるから、これは財政に寄与していないなど、はっきりとした方がいいと思う。(委員)

- ・市民という言葉がずっと流れていくと、住んでいる方だけをさしているような雰囲気になっているように思われる。あちこちから働きに来ている人も多いので、働きに来た人も支える。少し幅広に見えるようにした方が、都市ビジョンというところにはふさわしいと思う。支えられる人も、支える人も気になる。もし自分がこれを見て門真に住んでみようかとしたときに、ひょっとして税金が高いのではないかと逆のことを考えてしまう。みんながなかよく住めるというニュアンスの言葉に変える方がいいと思う。個人の方が区画整理を6つぐらい行っているが、木造賃貸住宅からいいマンションの賃貸住宅ができていく。たぶん家賃が高くなり、住んでいる方もかなり高所得の方と見受けられる。周りの雰囲気が変わると、お店が入って活性化が勝手に進んでいっている。単に賃貸から持ち家にするといった非常に短絡的な考え方ではなく、賃貸でもいろんな方が寄ってきて、まちが活性化するやり方もあるという紹介をしたらいいと思う。住んでいる間に活性化がなくなるというのが一番の問題であると思う。住み続けてもらうのはいいが、いつまでも活力を持って住み続けてもらう。そのためには、いろんな力を入れな

いといけないので、まちが活性化するやり方を紹介することが一つである。また、ものづくりに対する市としての対応を表にきっちりと、都市ビジョンという限りは出さないといけないと思う。力があるところが出ていくと、活力と雇用が失われるので、調整区域に誘致するなどの意気込みを書けばよいと思う。住んでいる人の扱いについては、非常に吟味されていてよく書かれている。別の観点も項目に入れた方がよいと思う。(委員)

- ・市の弱みの構造が出てくるのは非常に珍しい、すごいと思う。これをどう考えるかということである。実際のところを隠さないで、その問題に正面から向き合うべきであり、きれいなことだけを書いてあっても実現性はない、という意味合いが入っていると思う。それが非常に大事な点だと思う。弱みという点、それはどのような構造なのかという理解の仕方、言葉の問題についても、次回までのためにも議論しておく必要があると思う。門真市の持っている都市問題があることは事実である。仮に弱みの構造だと理解して、これをどう、よりポジティブな方向にもっていくか。そのときの仕掛け方、仕掛けを考えるときの基本的な理念はどのようなか。弱みの構造の理解とポジティブな方向にもっていくときの戦略や理念についての問題をきちんと議論する必要があるのではないかと思う。ただ、潜在価値では歴史的なことは比較的多く記述されているが、現在における潜在価値についての記述が少ない。その点がもう少しあればよいと思う。(委員)
- ・門真市の都市構造を見たときに、北側は住宅問題で、南側は第二京阪道路などに関連した今後の土地利用の問題と大きく2つに分かれている。南側は、門真市の産業や雇用の場を視野に入れたビジョンが必要であり、北側は、コンパクトシティというビジョンがあるのかと思うが、このような地理的なものも重ねて議論した方が、現実的な提言になるのではないかと思う。(委員)
- ・コンパクトと言っているが、確かにエリアとしてはそんなに広くないことは確かである。しかし、コンパクトというのは都市形態のことを言っているが、人々の交流が密であるかと問われるとどうか、形の方だけをいうのはあまり意味がないだろうと思う。意味のあるまちにするには、人の動きや活動というものがあってはじめてコンパクトというのは意味を持つと思う。狭ければよいということではなく、下手をすると、コンパクトとは狭い、というイメージを持ってしまう。コミュニティを活性化させるためのフィジカルな条件として集まっているとしても、活動力が高いコミュニティになっているかと言われると、分からないのではないか。産業活動がそれなりに活発で、それが市のためにもなっていて、人々もわが町に誇りに思っているという関係がないと、本当の意味でコンパクトとは言わないと思う。コンパクトというのは流行り言葉で、この言葉を使うのは一つの方法かもしれないが、コンパクト=(イコール)密な交流とは限らない。むしろ、コンパクトをどうやって密な交流にするか、ということの方が重要だと思う。門真はコンパクトなまちだから良いということではないと思う。交流が密になる可能性はあるが、どうすれば本当にそうなるのか。何の活動もなければ、何の意味もない。コンパ

クトであることが、人々の交流やまちづくりをやりやすくする条件であるということを活かしたら、活動が非常に活発にあるということにある。コミュニティ再生についてコンパクトの意味をうまく使って欲しい。(委員)

- ・それからもう一つは、言葉は選ばないといけないと思うが、低層所得者の住宅問題すべてを考えると、雇用の問題があると思う。全部市外に働きに出ていくというイメージで捉えると、単に住宅の問題になってしまう。地域内に雇用の場がないと、バランスの取れたまちにはならないのではないかと。(委員)
- ・門真といっても、コンパクトといっても、それなりに広いので、北側と南側では違いがあるので、それらの都市構造を踏まえて議論することは大事だと思う。潜在的な価値というのが、どちらかという交通の利便性だけになってしまうと、門真のアイデンティティがあまり出てこなくなる。門真らしいまちづくりをイメージするためには、雇用の場やものづくりの拠点などいろいろな要素があり、門真らしいものが門真にあるという状況を考えることが重要である。自立的とまではいなくても、経済、産業という要素もまちづくりを考えていくときに発想していかなければならない。大学という意見もあった。大学の経営は難しいが、これも重要な要素であろう。ものづくりは大事な要素であるが、最近、教育、文化、福祉といった文化的要素は、従来どちらかという経済、産業とは遠いと思われていたが、まちづくりと非常に関連が深い、あるいは、人が集まるという要素として非常に大きい。門真とどううまく合わせるかという発想がいると思う。支える、支えられるという構造が現実にあるという問題と、今後、どのような発想でやっていくかという問題は、少し異なるかもしれないと思う。実際にどのような発想で仕掛けをしていくのか。支える人だけを入れて、そうでない人を排除するという発想でいいのかと言われると、ちょっと違っているかもしれない。門真のまちがある意味活性化して、従来、支えられると言われていた人たちもアクティブになるというようなことが、本当は一番基本なのだろうと思う。本当にそのような仕掛けがありうるのか、ということを考えていかなければならない。基本的なことを確認した方がいいように思う。(委員)
- ・弱み、強みというようなことで現状を見ていくとしたときに、どうしても弱みばかり目に付く。強みのところをもっと出していって見たらどうか。何があるのか、ということをもっと整理をしないと、弱みの意味もなくなってしまう。言葉だけでは一人歩きする。人が集まってきていることは、大きな門真の魅力であると思う。私の大学は守口市にあるが、学校の周りは環境としてはあまりよくない。だけど人の輪というのは非常によい。他市から来た学生を上手に受け入れてくれている。物も安い。結構、学生たちは魅力を感じて住み着いている。傍から見たら問題はあるが、環境として、他市から入ってきたときに、そこに住み着きやすいという状況があり、だから人がどんどん入ってきて、密集地になってしまったということがあったのだろう。そういうところからスタートしていかなければ、単に低家賃のところをレベルアップして、グレードを上げようというだ

けでは解決しないのではないかと。弱みをこれだけ挙げたのだったら、よさを挙げておかないと、議論の端緒ができてこないのではないかという気がする。(委員)

- ・支える人、支えられる人というのは、非常に分かりやすい言葉と試みていた。ただ、それぞれによって、支える方と支えられる方は別だと認識しないといけないと思う。一人の方が支えられる人ばかりでもない。ときは支えられる側にも回るし、支える側に回るということを理解した上で読むと、分かりやすい表現ではないかと思う。この門真市都市ビジョン策定懇話会が、最終的にどの段階にたどり着けばいいのか、今になって疑問を持ってきた。いろいろ市民の方のご意見も出た中で、みんなが思っているのは、三世代がともに生き生きと暮らし、住み続けたいようなまち、心の輪の広がりである。これが最終的な市民の方々の総意であるとするならば、その中で個々それぞれ、低家賃の問題、コミュニティの問題、いろんな分野からの問題提起も出ているように思う。だが、これらすべて網羅した上のこういうまちづくりはどうか、というものを出すのか。あまりにもかけ離れた夢みたいなもので最終的に落ち着くのか。もっと具体化したものを出すのかという疑問を持っている。市民が主導でやっていけないといけない部分、行政が主導でないとできない部分もあると思う。どこまでを、どこがやっていくのかを出していくのか、難しい部分があると考えている。(委員)
- ・1つ目は、産業、活力という点から見ると、住まい手ばかりの話なので、ちょっと偏っているように思う。誰が見ても自分の位置が分かるように、住み、働き、学び、憩い、そして活力という5つの言葉を上手にまとめられたらいいと思う。2つ目は、従前あった総合計画とこの都市ビジョンの違いは、市民、行政、役割の提案の部分であると理解している。今までの総合計画はこの具体性がない。まだ、不満足だが、今回、こと具体的にかなり細かく出てくることを大いに期待している。例えば、「門真ことば文化育成の拠点施設(図書館等の再構築)」とあるが、このように具体的に書いてもらいたい。前回は発言したが、門真団地の再生というのがあったが、具体的に門真団地の再生のイメージが分かるように書いて欲しい。ハード、ソフトともに具体的に提案願うとしたら、素晴らしいものになると思っている。(委員)
- ・コンパクトシティというのは、ある程度歳をとっても、歩いて行けたり、コミュニティバスを使って行けることで、いろんな人と会うことができるのだというイメージを考えると、北側の密集市街地は京阪の駅がある。今、駅から始まるまちづくりというのが流行っている。そこまで大きなことはやらなくても、その駅は電車の駅でもあるが、市民のコンパクトシティ駅でもあるという形で上手く利用すれば、そこから情報が得られるだろう。100%できなくても、具体的な都市構造から市民へのサービスがあればと思う。密集市街地の問題をなぜ公共がやらなくてはならないのかというのは、30年代の後半に日本を支えた人たちが、特に門真にはたくさん来た。その人たちが住んでいることが、密集市街地になっている。やはり感謝の気持ちを持って、そこを住みやすい場所にするというのは、こちらで考えないといけないと思う。そのあたりを2行でも1行でもいい

から触れて欲しいと思う。若い子育て中の女性が来るためには、まず医療があって、保育所があって、それからおばあちゃんの相談所みたいなものがあれば、みんな来る。分かりやすい相談所みたいなものがないというのが非常に問題で、ソフトの話も少し入れて欲しい。これから労働力不足になれば、女性力がもっとも必要になってくる。それを利用していただきたい。そうなれば、門真って住んでみたいと思うのではないかと思う。(委員)

- ・門真の都市の格が低いところをイメージアップするために、急行が止まるような施策が出せないか。今の市政は前の市政と何ら変わらない。何がしたいのかよく分かるものを示して欲しい。その一つに急行停車駅をつくることを示して欲しい。(委員)
- ・門真市駅に準急ないし急行を止められないかという要望がある。市内の駅の乗降人員の実態をみると全部粒ぞろいである。一つの駅だけ急行を止めてしまうと、ホームツーホームのホームでの乗り換え構造になっていないため、他の駅に迷惑をかけてしまう。また、守口市駅で全て乗り換えるようになっており、ダイヤの関係から見ると今が一番いい状態になっている。今年の8月28日から萱島駅に始めて寝屋川市も補助を出して小型バスが乗り入れを開始した。バスは幹線道路があっても人がいないとバスは成り立たない。人口密集地域で一定の道路問題をある程度整備し、バスを小型化すれば、割と高密にバスを走らせることができ、魅力づけはできる。公共交通のあり方の問題は、門真市の場合には現在マイナスだが、逆にプラス側に持っていけるヒントになるのではないか。また、ルミエールホールは、音楽に使用すると非常にいいという評判を聞いている。音楽活動の拠点として使うことができるのではないか。(委員)
- ・門真市の弱みの構造と「支える人」の転入と定住を促進する仕掛けの提案は、基本的に連動していると思うが、この構造と仕掛けについて懇話会から提案をしていただけなのか、その点を議論して頂けないかと思う。(事務局)
- ・これは何のために書いてあるのかというと、行財政収支構造の改善である。タイトルはあくまで支える人を定住させようと言っているが、結局は財政構造のことを言っている。タイトルを財政構造にして、言葉をいじれば財政構造の改善として読みきれようと思う。タイトルとアウトプットの部分が少しずれている。(委員)
- ・仕掛けというのは、別紙の資料にある文のことなのか。(委員)
- ・これはあくまでも参考であって、専門的に検討していく必要があるのではないかという参考資料である。(事務局)
- ・みなさんの意見の印象から、どちらかというと、支えると支えられるをすぱっと分けてしまうことが、あまり正しくないのではないかというご意見が多かったように思う。例えば、女性の力をもっと活かせるようにした方がいいといった、門真をよくしようと活動する人を増やすことが、一番基本になっていると思う。行財政収支構造の改善が目標となるのは、ちょっとまずいのではないか。これは結果として出てくるのではないか。アクティブな活動をする人が増え、また、門真の資産は、駅がたくさんあるという強い

インフラや日本全体を支えている松下さんのような企業があり、その活動をしてきたことがまちにもたらしていることを活かせる発想がいるのではないか。言葉の使い方の問題はあがるが、弱みの構造を率直に考えたとき、門真市のイメージの問題は、いろいろな課題を抱えているのは事実であり、その構造問題はあると理解した方がいいと思う。書き方は考えないといけない。その脱却の方式、その理念をどのようにしていくかが大きい課題と思う。(委員)

- ・ 仕掛けというのは、あめとむちというイメージが沸いてしまう。行財政収支構造の改善というのをあまり表に出さないのであれば、ここに書いている程度の文言でいいと思う。何を最終点にもっていくのかによって、表現の仕方が変わってくると思う。(中井委員)
- ・ 門真をよくしようというアクティブな人を増やすというのが基本的な課題だと思う。そういう人がいないのに、突然まちが変わるということはない。今まではそれが見えていなかったが、そういう機会や場を増やすことで、アクティブな人が本当にアクティブになっていき、それがまたアクティブな人を増やす。財政収支構造が好転するということは重要なことだと思うが、むしろ、民間自身の中でアクティブな人を増やす構造が書けないか。コミュニティバスなどは一つの契機になる場合が多い。病院に行くなどタクシーの福祉的利用で結構経費がかかっているが、そのような必ず人が行くような病院など大事なところと連携して、人がたくさん集まり、経路の検討などワークすることによってうまくいく場合がある。そこまでしないとうまくいかないこともある。財政収支が良くなるというのではなく、そのようなまちづくり力を門真の人が高めるための仕掛けの内容が入った方がいいと思う。(委員)
- ・ 財政収支の構造を変えるのは、担税者の税負担がうまく還元されていない状態からの脱却を意味している。(事務局)
- ・ 民間自身の力がもっと出てきた方がいいのではないかと。公共としては重点的に密集市街地の再生促進、例えば、犯罪がない、防災がしっかりしているといった住みやすい状態を作るといったことではないか。これは、公共がそうとう力を入れないといけない。門真をよくするために若い世代や高齢者、主婦層などがアクティブなネットワークになり、公共と協働するまちづくりの方へ向かったらいいと思う。働きに来ている人も含めた門真をよくするネットワークをもっと強くし、それが循環すると良いのではないかと考える。それに公共がサポートシステムで支えるということが必要ではないかと思う。力の度合いで影響力が大きいところが、まちづくりとうまくタイアップするのは大変大事だと思う。それを継続的に追求し、その結果は、乗降客などにも反映し、プラスになっていくと考えられ、交通やものづくりにも関連性が出てくると思う。(委員)
- ・ 仕掛けという言葉のイメージとして、仕掛ける者と仕掛けられる者があり、支える者、支えられる者という区切りになる。支えられる者がこれを快く受け、そして自ら努力や改善する面が出てくるかどうかということが気になる。流れ図として見るにはいいが、どこかに目的が隠されていて、市民を誘導していくという、もし意図があるとしたら、

支えられる側からすると、いい方に響いてこないのではないかと。支えられる人を別の言葉に変えられないだろうかと思う。(委員)

- ・仕掛けというのは重要な点もある。今のまま放置しておいて、それでうまくいくかという、そうではないだろうから、何かしていかないといけないと思う。作りたいものは仕掛けではなく、門真の中でうまく活性化していくようなメカニズムをどうつくるか、それが働くかということが重要である。そのために、市として出来ることは何だろうかという発想があると思う。イメージとしては密な交流とか、活動の活性化が、より住みやすい、働きやすい状況につながっていくような自立に向かうことが必要だと思う。ここでは、いい意味で言えば、行財政の役割を重視している立場で書いており、それは大事なことである。門真の場合はそれだけになりがちである。市民会議などがもう少し動いていくなど、門真市に関わっている人が、変化を促すようなものになればいいと思う。(委員)
- ・市民の交流を創る仕組みでは、物理的な場所ではなく、心のふれあいを作るというソフトな仕組みを創ることが大事ではないかと考えている。(事務局)
- ・交流圏を作ろうというからは、何らかの施策がないといけない。誰がやっていくか、どうしてくかという点を詰めていかなければならない。(委員)
- ・一人の人でも、支えられるときもあれば、支えるときもあるという両方の面があるという認識があれば分かるが、その書き方を考えた方がいい。仮に支えられる人の発生場面の抑制という言葉を残すならば、現在の資料では抑制から始まっており、人がもの扱いになっているので、活動する人を増やすこと、ものづくりやコンパクトシティを創ることも含めた施策の構造になっていれば、結果としてそれが抑制に繋がることになると思う。(委員)
- ・「支えられる人」という表現は、弱い人を気にしているような誤解を招く気がする。もっと大きな視点で門真市をより住みやすい、活性化するには、13万人くらいの人口があり、住む場面、働く場面、学ぶ場面、憩う場面などいろいろな場面があり、そのような全体的な視点から議論を進めていかなければ、支えられる人に問題を絞っていくことについては腑に落ちない。もっと大きな視点で、人に焦点をあてたり、自発的な活動などについてうまく表現できないかと思う。(委員)
- ・コミュニティを手段として捉えているように思う。住む、働く、学ぶ、憩うことなど、それらも広義のコミュニティとして捉えて、その中の各論では、年寄りの知恵を活かした地域での教育も含めた教育力など、コミュニティを手段ではなく、広義に捉えて進めていった方がいいと思う。(委員)
- ・簡単にまとめるわけにはいかないが、かなり重要な意見を頂いた。たくさんの意見を整理すると、書いている項目自体は、このままでいいと思う部分が多い。意見をいただいた観点で、発想自体を整理し直していただきたい。門真の内部的な活力が高まるような発想で考えていただきたい。門真にはいろんなものがあり、人がいるという要素がある。

今は眠っているが、頑張るようになる人も出てくると思う。マイクロプロジェクトという興味ある話があるが、これは外からの援助ではなく、貸し与えるだけであり、女性に着目したところが重要である。一生懸命に働いて、還すようになるという自分の力が出てくるという事例もある。制度的な支えや仕組みがよくないために、現状がこうなっているという貴重な意見があったが、門真で内部的な力が活性化するようやり方を考え、結果として行財政がよくなり、行財政の役割も高まるといった相乗的な方向に進められたらと思う。(委員)

- ・ 次回の日程は、2月23日(金)午前9時からの開催とする。2時間半ぐらいの予定だが、もし議論が高まれば12時ぐらいまで行う。(会長)

マイクロプロジェクトについて

アジア、アフリカ、中南米において、戦争・自然災害・貧困等により社会的・経済的に恵まれず社会から取り残されている人々に対し、地域住民が自分たちの手で、農村開発などのプロジェクトを計画から実行まで行うことで、その後の農村の発展も、住民みずからが担うように、住民や共同体(村)を導くという開発手法を用いたプロジェクトである。

このプロジェクトは、マイクロクレジットと呼ばれるマイクロファイナンス(小規模融資)を受けて実施される。

プロジェクトの参加者は、女性で、その村に3年以上住み、年齢は18才から48才までという選定基準が設けられ、参加者は5人で1つのグループを作り、そのグループが4つで1つのセンターになり、参加者は自分たちでグループリーダーを選び、グループリーダーは主リーダー、副リーダーを選び、それぞれを助けることにより、プロジェクトが遂行される。